

1 インタビュー

エンジニアリングとイノベーションによる課題解決／ 価値創造に注力し、グループ全体で持続的に成長

通信建設会社大手の株式会社協和エクシオ（以下、協和エクシオ）は、近年、通信キャリア向け以外の事業も拡大し事業ポートフォリオの再構築を進めている。2021年5月に発表された事業ビジョン“2030ビジョン”、および新中期経営計画の内容を中心に、同社取締役常務執行役員 経営企画部長である三野耕一氏にお話を伺った。

通信キャリア、都市インフラ、システムソリューション、の3事業で成長

—まず貴社について簡単にご紹介ください。

三野 協和電設として37年間通信建設ブランドの確立に取り組んだ後、業容を拡大して社名を協和エクシオに変更し、エンジニアリング会社としてのブランド確立に邁進して30年が経過しました。近年は都市インフラおよびシステムソリューション事業を拡大しており、2015年度に全体の2／3あった通信キャリア関連の売上高比率が、2020年度には半分以下になりました。

10年後に目指す姿、実現したい社会を描いた“2030ビジョン”

—2021年5月に発表された“2030ビジョン”について教えてください。

三野 「“Engineering for Fusion”～社会を繋ぐエンジニアリングをすべての未来へ～」をコンセプトに、「10年後にエクシオグループが目指す姿」の実現に向け取り組むというものです。「イノベーションによる課題解決」など3つの挑戦を通じた新たな

価値創造により持続的な成長を目指します（図1）。

—具体的にはどのようなことを目指すのでしょうか？

三野 現在の社会は「環境破壊・資源の枯渇」、「インフラ老朽化・自然の驚異」、「人口減少による過疎化・空洞化」、といった喫緊の課題に直面しているとともに、「急速な技術革新」、「モノからコトへのサービスの変化」に加えて、「社会意識の変化」も急速に進んでいます。この状況を踏まえ、我々は2030年に目指す社会を「カーボンニュートラルな社会」、「健康で生き生き暮らせるスマート社会」、「グローバルで多様性を享受する社会」、「貧困・格差が解消



株式会社協和エクシオ
取締役常務執行役員経営企画部長
三野 耕一氏

される社会」としました。

我々が貢献できる領域はさまざまです。カーボンニュートラルな社会に向けた取り組みだけを例にとっても、スマートグリッド、FCV／EV、洋上風力発電、メガソーラー、

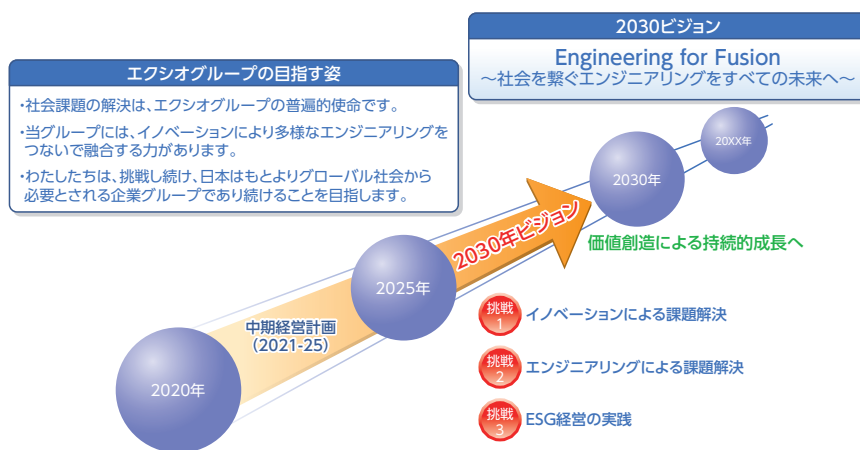


図1 2030ビジョン

ほかにも多数あります。

多様なエンジニアリングフィールドを融合し新たな価値を創造

——目指す姿のなかで触れている「イノベーションにより多様なエンジニアリングをつないで融合」とはどのようなことでしょうか？

三野 協和エクシオはエンジニアリングの現場とシステムソリューションの双方を事業として保有していることが強みです。デジタルツインやAI／AR技術を活用し「イノベーションサイクル」を回すことにより価値創造を実現し、それらをエンジニアリングフィールドに適用することで、交通・モビリティ、環境・エネルギー、都市／データ空間・オフィス、インフラ再生といった新たな領域に事業を広げていくということです。

新中期経営計画の目標達成に向けた各事業セグメントにおける取り組み

——新中期経営計画の目標と、その達成に向けた取り組みについてお聞かせください。

三野 新中期経営計画では2025年度に売上高6,300億円、営業利益470億円を達成するという目標を設定しました(図2)。この目標達成に向け、通信キャリアの分野ではまず世の中で求められている5Gの展開に積極的に取り組むとともに、デジタル技術を活用して収益性・生産性を向上させたいと考えています。

都市インフラについては昨今データセンター関連の売上が好調に推移しています。今後は洋上風力発電など新領域を積極的に拡大するとともに、「建設DX」を推進していく考

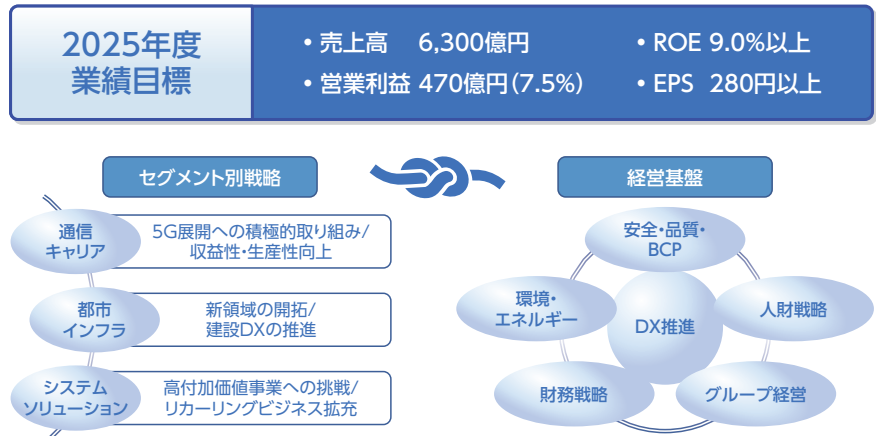


図2 中期経営計画の目標

えです。

システムソリューションも延ばさなければいけない分野です。特に高付加価値事業への挑戦、保守・運用等のリカーリングビジネスの拡充を行い、トータルソリューションで安定的な収益につなげたいと考えています。

経営基盤強化に向けた取り組みのなかでも特に「人財戦略」を重視

——特に重視されている取り組みはありますか？

三野 DX推進は避けて通れない課題です。更に重視しているのが「人財戦略」です。10年かけて現場のスキルを学ぶような従来のやり方では立ちゆかなくなる分野も出てくる、という危機感があります。事業環境の変化に適應できる育成が必要です。

これまで「会社は人」と考えてきましたが、「人が会社の財産」という考えを改めて強調するため、あえて「人財」と表記しています。

——「人財戦略」についてもう少し詳しくお聞かせください。

三野 新入社員の育成がベースであることには変わりありませんが、グローバル人財を含め即戦力の採用も強化する方針です。異なる文化を持

つさまざまな人が集まることになるので、処遇についてもそれに合うよう考えていかなければ、と思っています。ほかにも、たとえば副業を認めるといった検討も必要でしょう。

こうしたことの検討を含め、2021年7月1日からは新設の「人財開発部」が、採用や人財育成を担うこととなります。

“エクシオグループ株式会社”へ社名変更。グループ経営を強化

——最後に今後に向けた抱負などお聞かせください。

三野 エクシオグループは100社を超えました。各社が単独で成長する時代ではありませんので、統廃合も考えながらグループ全体で成長していくことが重要です。共通的なシステム基盤を構築してグループで活用する、グループ内の人財交流を活発化するということにもますます注力します。また2021年10月には社名を“エクシオグループ株式会社”に変更する予定です。「協和」に込められた協力と和合の精神は「グループ」に受け継ぎ、グループ経営を強化していく方針です。

——本日はありがとうございました。